

第3学年 道徳科学習指導案

1 主 題 名 かけがえのない生命の尊重 D 生命の尊さ

2 主題設定の理由

(1) 価値観

中学生という時期は、自己の生命の有り難みを感じている生徒は決して多いとは言えない。近年、生徒たちの生活様式も変化し、自然や人間関係の希薄さから、生命あるものとの接触が少なくなったり、身近な人の死に接したり、生命の有限さや、かけがえなさに心を揺り動かされたりする経験も少なくなってきたりなど、生命の尊さについて考える機会も失いつつあるのが現状である。このことが、生命軽視の軽はずみな言動や行動につながり、社会的な問題となることもあると考えられる。生命をどのように大切にするかということは、人によって考えが異なることである。そのため、生命が多くの人々によって支えられていることを自覚し、有限である生命をどのように大切にしていけるかを考え、議論することを通して、かけがえのない生命への思いを深めることをねらいとしたい。

折しも3年生の社会科において基本的人権を学習する際に、臓器提供意思表示カードについても取り上げている。最近学習していることで、教科横断的視点においても、より身近なものであると感じやすく、切実感をもって考えを深めることができるだろうと考えた。

また本時では、家庭との連携にも焦点を当てて実施する。自らの考えをもった後、事前に集約した保護者アンケートの意見や考えを提示することで、かけがえのない生命についてのさらなる価値の深まりにも期待したい。

(2) 生徒観

本学級の生徒は非常に明るく活発な生徒が多い。学級内でも多くの生徒が自分の感じたことを素直に発言し、表現する生徒が多い。一方で、軽はずみな発言や行動も多く、物事を深く考えず、生命軽視の発言も教室内で見受けられることもある。しかし、生命の尊さ、かけがえのなさという視点については、道徳の授業にのみならず、これまでも繰り返し学習を行ってきた。その上でこのような発言が日常生活の中で発せられるということは、かけがえのない生命の尊さが生徒にとって本質的な理解へとつながっていないという現状があると言える。

現代社会に目を向けると、大人でもどうしたらよいか判断に迷う問題がいたるところに存在している。表面的な葛藤ではなく、考えれば考えるほど答えが出せなくなる本教材を通して、生徒自身に、より真剣に生命の尊さに向き合ってもらいたいと考えた。

(3) 教材観

主人公の姉が交通事故で脳死状態となる。姉が持っていた臓器提供意思表示カードには、臓器提供の意思があると記入してあった。臓器提供には家族の承諾が必要であり、家族の意見を求められるが父親と母親で意見が分かれ、まとまらない。中学生である主人公も両親に意見を求められるという教材である。

意思表示カードについては、制度には賛成する生徒が多くいることが想像される。しかし、肉親の心情を考えると、「脳死」を「死」として受け入れることは難しいことも理解できる。こうした点に焦点を当て、生徒が中学生の主人公の立場を自分に置きかえて葛藤することを通して、生命を尊重する思いをさらに深めることができると考えた。意思表示カードに記された姉の思いと、家族の思いを通して、生命を大切にするということは、どのようなことであるかを考え、かけがえのない生命を尊重しようとする心情を育てたい。

3 本時のねらい

- 意思表示カードに記された姉の思いと、家族の思いを通して、生命を大切にするとはどのようなことであるかを考え、かけがえのない生命を尊重しようとする心情を育てる。

4 準備・教材

- 教材名「家族の思いと意思表示カード」
- 生徒……振り返りシート、タブレット端末
- 教師……タブレット端末

5 関 連

- 1年 道徳 「いのちを考える」(生命の重さ)
- 2年 道徳 「たったひとつのたからもの」(精いっぱい生きる)

6 学習指導過程

段階	学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 事 項
導	1 スライドに「命」の文字を提示する。	3	<ul style="list-style-type: none"> ○机は使用せず、椅子のみで着席させる。 ○本時は「人の死」について考える授業であり、中学生には早い内容であるかもしれないが、高校や大学には道徳の授業がないため、中学校3年生がラストチャンスであることを伝える。
	2 「死」の文字を提示する。		
入	3 臓器提供意思表示カードを提示する。	5	○既習事項である臓器提供意思表示カードについて生徒に説明させる。
	臓器提供について、あなたはどうか考えるだろう。		
展	4 臓器提供に関するアンケートに答える。 【臓器提供についてどう思うか】 (1) 5件法アンケート (2) 無記名で生徒の考えをカードに入力する。 <肯定的> ・誰かを助けることにつながる ・自分が誰かの体の中で生き続けることができる。 <否定的> ・自分の命なので誰かに渡したくない。 ・生きている人を殺しているみたい。	15	<ul style="list-style-type: none"> ○ロイロノート・スクール（株式会社LoiLo、以下「ロイロノート」と表記）でアンケートに答える。 ○アンケートの結果をモニターに円グラフで提示する。 ○近くの生徒と意見交換をさせる。 ○生徒の立場を明確にするために、提出時のカードを色分けさせる。（肯定的：赤、否定的：青、どちらともいえない：黄） ○モニターを使い、生徒の意見を全体へ共有させる。 ○円グラフとロイロノートのカードの色分けにより、視覚的に導入時の級友の考えを把握させる。
	5 教材を読む。 6 「脳死」について確認する。 7 父親と母親の思いについて考え、グループ内で議論し、全体へ発表する。		<ul style="list-style-type: none"> ○スライドで脳死の定義を押さえる。 ○スライドと黒板で父親と母親のそれぞれ思いを整理させる。
開	妹は「父親の思い」と「母親の思い」をどのように受け止めているのだろう。		
	<ul style="list-style-type: none"> 【父親の思いに近い生徒の考え】 ・誰かの中でこれからも生き続けてほしいと考える。 ・本人が意思表示カードに記した意思を尊重させてあげたいと考える。 【母親の思いに近い生徒の考え】 ・心臓が動いているのに、臓器を取り出すことはできないと考える。 ・大切な人なので、体に傷を付けられたくないと考える。 【その他の考え】 ・決められない。 	25	<ul style="list-style-type: none"> ○6グループで円状の隊形に移動させる。 ○生徒の考えをもつ時間を確保し、グループ内で1人ずつ意見を発表させる。 ○生徒には自分が父親と母親のどちらの立場に近いかを考えさせて発表させる。この時、立場に悩み、決められなくてもよい。 ○机間指導を行う中で、気になる意見や考えをもっている生徒を中心に、全体へ共有する。その際、切り返し発問などを行い、グループ内や全体での議論につなげたい。 ○決められない生徒の心の内を公表させることで、生徒の考えの揺さぶりや議論につなげさせる。
あなたが妹の立場なら、どのような判断をするだろうか。			
	(1) 自らの考えを発表する。		

展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人だと考えると簡単には同意できない。 ・本人の意思を尊重させてあげたい。 <p>(2) 補助発問を聞き、再検討する。 【2つ新聞記事】(朝日新聞投書欄より) A「娘をドナーに私はできない」 B「家族の場合に迷う臓器提供」 【死の定義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸の停止 ・脈拍の停止 ・瞳孔拡大 <p>(3) 付箋に自身の判断理由を記入する。 (4) 付箋を黒板の心情バロメータに貼りに行く。 (5) 級友の考えを見て、考えを深める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の考えをもつ時間を確保し、グループ内で1人ずつ意見を発表させる。 ○生徒の考えについてグループで議論をさせる。 <p>補 姉の意思をどのように扱うべきだろう。</p> <p>補 2つの新聞記事を読んでみよう。</p> <p>補 「死の定義」を確認してみよう。</p>
	<p>9 保護者の思いを知る。</p> <p>10 振り返りシートを記入する。</p> <p>11 教師の説話を聞く。</p>	<p>40</p> <p>評 家族の思いを踏まえながら、自分ならどのような判断をするかを考えている。(付箋)</p> <p>○事前に集約した臓器提供に関する保護者アンケートの結果と保護者の思い(匿名)を生徒に知らせ、自らの考えと比較させる。</p> <p>評 本時の授業から、かけがえのない生命を尊重しようとする心情について考えている。(振り返りシート)</p> <p>○生徒それぞれの考えに正解はなく、かけがえのない生命について真剣に考える態度が大切であることを伝える。</p> <p>50</p>

7 本時の評価

- 自分と関わりの深い家族の思いから、生命の尊さについて考え、自他の生命を尊重しようとする思いを深めている。(振り返りシート)

8 備 考

- 机は使用せず、椅子のみの座席で授業を行う。グループ隊形では6人組の円状にすることで、グループ内での議論が活発に行いやすいようにした。
- 導入時に臓器提供に関するアンケート(5件法アンケートと記述式アンケート)をタブレット端末で実施し生徒に共有する。その後、後半に実施する心情バロメータに付箋を貼る活動を通して、生徒自身だけでなく級友の気持ちの変化や考えの深化を視覚的に分かりやすくなるようにした。
- 本時では道徳教育と家庭との連携にも焦点を当てて実施する。事前に保護者へ教材を読んでもらう、感想と臓器提供に関するアンケートに答えていただいた。生徒が授業の中で考えたことを踏まえ、授業の最後に保護者の思いを提示することで、生徒のさらなる考えの深化や気持ちの変容、揺さぶりに期待したい。

9 板書計画

